

オブジェから生まれる〇〇物語

—「A表現(2)」—

～表現方法を選びながら、イメージを膨らませた物語を絵に表わそう～

広島市立東野小学校 黒田 恵子

1 日時・場所 平成24年 11月 22日(木)第 9:55～10:40 6年2組教室

2 学年・組 第6学年2組(男子 15名 女子 19名 計 34名)

3 題材について

- 本学級の児童は、自分の感じたことや想像したことを絵に表すことに自信をもつことができる児童と苦手意識をもち自信がもてない児童がそれぞれおり、個人差がみられる。表現過程においても個人差があり、自分のイメージをもとに発想したり、想像力を働かせてイメージをふくらませたりするのに時間がかかってしまう児童も多い。表現に自信がない児童は、友だちの表現を見て、イメージをふくらませたり、表現方法をまねしたりしながら活動する様子もみられる。創造的な技能については、これまで経験した描画材料の表現方法を使うことはできるが、応用したりしながら、自分らしく表現できる児童は少ない。鑑賞に関しては、表現過程の途中でも、自由に作品を見合う姿が多く見られる。いろいろな視点から互いに交流し、自分の思いや友だちのイメージをくみ取ろうとしている児童が多い。その結果、全体鑑賞では、多くの児童が自分の思いを伝え合うことができる。
- 本題材は、前題材「線と光のドリミネーション」でつくった自分の作品のオブジェを写真に撮って画用紙にコラージュし、そこに広がる幻想的な光や色から、想像した物語を絵に表す活動である。自分のオブジェをコラージュすることによって、自分のつくった作品のよさやイメージを大切にしながら、想像したことを表すことができ、自分だけの世界観をもちやすくなる。これまで経験した描画材料や表現方法を選んだり、応用したりするなど、表し方を積極的に工夫し、自分がイメージしたことを自由に表現することを期待する。オブジェの形や色の美しさなどの感じから物語を想像し、表したい場面に合わせて描画材料の特徴を生かして使うとともに、適した表現方法を工夫できるのではないかと考えている。また、感じたことをいろいろな視点で豊かに発想し、自信をもって自己表現していく力を高めたいと考えている。
- 指導に当たっては、自分がつくった作品を暗い場所で光らせ、そこから広がる想像の物語を、絵で表したいという意欲をもたせるように導入での言葉かけ投げかけを大切にする。発想や構想の段階で、コラージュを取り入れることで苦手意識をもつ児童や自信のない児童の表現に対する抵抗感をなくす。時間がかかる児童に対しては時間を確保し、自由にイメージマップなどをかかせながら、イメージが表れるような形や色を考えさせる。苦手意識があり自信がもてない児童には、イメージを効果的に表現できる表現方法を試すことのできる試し紙や場を用意する。また、描画材料を選択できるように、多様な方法や描画材料の扱い方が確認できる掲示物を用意し、自分で選択したり応用したりしながら、工夫を表現できるようにする。

4 題材の目標

○光や色から想像した物語を、表現方法を工夫しながら絵に表す。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	・様々な方法を試みながら、心に浮かぶ物語を表すことに取り組もうとしている。	・想像した物語について光や色から想像を広げ自分の思い描いたイメージが表れるような形や色を考えている。	・描画材料の特徴を生かしながら、表現方法を工夫している。	・自他の作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などをとらえている。

6 指導と評価の計画（全 5 時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 (1時間)	光るオブジェから想像力を広げ、心に浮かぶ物語をイメージする。	ア (観察) イ (ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法を試みながら、自分の感情を表すことに意欲的に取り組もうとしている。 想像した物語について光や色から想像を広げイメージが表れるような形や色を具体的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 光るオブジェかイメージする物語を考えるイメージマップを用意する。
本時 1 2 第二次 (2時間)	画面構成や表現方法を工夫して、イメージした物語を絵に表す。	ウ (観察) (作品)	<ul style="list-style-type: none"> 描画材料の特徴を生かしながら、効果的に表現方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法を試すことのできる試し紙や場を用意する。 描画材料の多様な表現方法が確認できる掲示物を用意する。
1 第三次 (1時間)	作品展を開き、お互いの作品を鑑賞する。	エ (ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品について語ったり、友人と話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などをとらえてその作品の世界観を感じとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の視点を与え、視点にそって鑑賞できるようワークシートを用意する。

7 本時の目標

描画材料の特徴を生かしながら、表現方法を工夫している。

8 準備物

(指導者) 画用紙、表現するための絵の具、パス、コンテ、ダーマト、描画材の掲示物、ブラックボックスなど

(児童) イメージマップ、表現するための絵の具、パス、コンテ

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1. 学習のめあて内容を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> めあて 用具のよさを生かしながら、 自分が想像した物語を工夫して絵に表そう。 </div>		
2. イメージした物語を工夫して絵に表す。	○多様な表現方法や描画材料の扱い方ができるように、掲示物を用意し、自由に見られるようにしておく。 ○それぞれの表現方法を試せる試し紙や場を用意する。 ★表現方法に迷っている児童には、光がとっているオブジェを見せたり、試せる場で思いに合った表現を見付けたりするよう促す。	・ ウ (観察) (途中作品)
3. 片付けとふりかえりを行う。	○本時のめあてと活動をふりかえり、自己評価して次時へつなげる。	